

以敬齋

長伯

耳佐

秋の野にさく花よりも百くさの

古路

こゝろこと葉ハ

免津

神やめつらん

新樹風

正直

佐者

茂り行青葉の梢さはくなり

者那八

はなハあとなき風越のやま

万

初秋水

永俊

介八者

けさハはやみきりの池の底すミテ

三亭

尔

水の色にも秋は見えけり

盤

介

里卯花

古免

多

農

俊雄

月雪の光りをこめて白たへの

者那可

うのはなかこふ二万の里人

【歌題】 村里に咲く卯の花

【作者】 小野俊雄。享保百首の主催者小野諸雄の子。冒頭にて詳述。

【意味】 夜々の月光や雪明かりをその身に宿したかのように真つ白な花卉をほころばせた卯の花を、二万の村人たちが大勢で囲んで見惚れているよ。

【歌枕】 二万の里は文字通り備中国下道郡二万郷（倉敷市真備町上二万・下二万付近）を指すが、古来著名な歌枕の地名として詠み込み、その由緒と字面から地方の山里に人だかりが出来るイメージを付与したものである。倉敷村から近い距離にあるが、小野俊雄が二万の里で目撃した実景というわけではないと思われる。

待郭公

永俊

可

可年

本

支須

夜をかさね待かね山のほととぎす

志

恵

可那

たゝしのひ音の一こゑもかな

【歌題】 ホトトギスの初音を待つ心

【作者】 井上永俊。宮崎屋井上家当主。冒頭にて詳述。

【意味】 いくつもの夜を重ねて待ちかねている待兼山のホトトギスの初音、ただ秘かに啼く一声だけでも聞きたいものだな。

【歌枕】 待兼山は大阪府豊中市にある歌枕の名所。大阪大学豊中キャンパスの傍らに今も丘陵地が残る。その名から切望する何かを待ち兼ねている様子を表現する意味で和歌に詠みこまれることが多い。

【備考】 新古今和歌集「夜を重ね待ちかね山の郭公 雲井のよそに一声ぞきく」（周防内侍）を本歌取りしつつ、切望感を強めるアレンジが加えられている。井上永俊が新古今和歌集（または新古今集から名歌を抄録した歌書など）を読んでいたことがわかる。